

公明党、研修会報告書

日時 2013年11月12日

場所 北海道、岩見沢市『クビドフェア』

内容 世界初の RGB（赤・緑・青）の LED を使用し、レタス、ベビーリーフを中心とした野菜の栽培を行っている。ということで工場見学中心のつもりで訪問しましたが。それも障がい者がやっており、その他にもベアリング製作、福祉用具製作、電気部品製作、パソコンのソフト制作など多種多彩な事業を展開する一つの共同体でした。

報告 障害者を手厚く守る、という発想ではなく障がい者のできる仕事を見つけ出しその仕事を提供し、地域社会に貢献するという理念に基づいた福祉対策を実際に行っている施設でした。

やはり、障がい者と仕事をつなぐシステムこそが求められていると感じました。



岩見沢市の通りに立ち並ぶ風車。ここでも再生エネルギーへの取り組みがなされていた。

但し、山岳が多い山梨県では効果が限定されるかもしれない。

いずれにしても、様々な取り組みの中で再生可能エネルギーへの転換を進めなければならないと感じた。

日時 2013年11月13日

場所 北海道・栗山町議会

目的 全国を先駆けて議会改革を推し進めている先進自治体として有名な栗山町の実態を視察した。

- 内容
- 1 議会主催による一般会議の開催。
 - 2 年1回の議会報告会を義務化
 - 3 議員の質問に対する反問権を付与。
 - 4 町民から議会運営に対し提言を聴取する、議会モニターを設置。
 - 5 有識者に政策作りの提言をいただく、議会サポーターの導入。
 - 6 正副議長志願者の所信表明の導入。
- など、これらの説明を受け質疑応答を行いました。



報告 今回の研修で感じたことは、議会としての決定と責任を明確にしてきた栗山町の歴史である。例えば、議長は就任する前に所信表明を行い、就任したら原則4年の任期を全うする、この中で責任ある対応が必然的に求められる。こうした歴史を積み重ねる内に、様々な課題も長期的視野に立つて進めることができたのではないだろうかと感じた。

私たち議員は、本当に住民の側に立っているのだろうか、と自問してみるいい機会になった。例えば反問権の付与など議員にしては厳しすぎる内容を議員自らの手で自らに課している。

わが市でも議長、副議長の立候補者の所信表明など、すぐにでも改革できる事が有ると感じました。

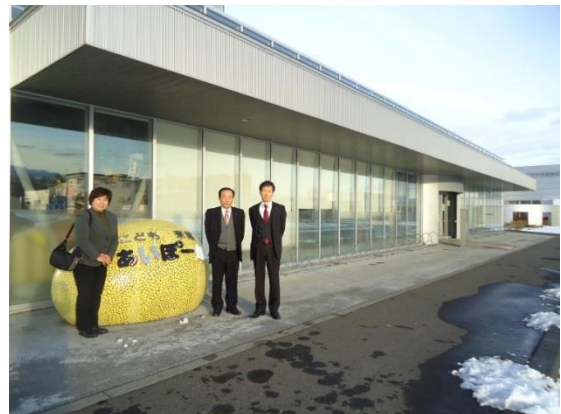
日時 2013年11月14日

場所 北海道、石狩市、「子ども未来館あいぽーと」

目的 子どもの育成に0歳から18歳までの多彩な年齢層を対象にした施設があることを聞き伺いました。

内容 地域型子育て支援施設「リトルキッズ」
スポーツ関係の種目を行う「プレイスペース」
防音された部屋でバンドやダンスを行う「文化活動室」
紙工作、手芸、木工、陶芸、理科実験ができる「創作活動室」
図書、雑誌など自由に読む「図書コーナー」
インターネットができる「PCコーナー」
友達と自由に会話ができる「ラウンジ」
等多彩なメニューが用意されている。

研修 石狩市の庁舎の道を挟んだ向かいにあり、隣には私立図書館がある広い敷地内に「子ども未来館あいぽーと」があります。実際に視察したときに、幼児から小学生、中学生、高校生まで違和感が無く、館内の施設を利用していた。同じ年齢層に偏りがちな子ども施設ではなくごく自然な中に存在しているこの施設のあり方に学ぶことが多かった。



私立図書館に隣接した「子ども未来館あいぽーと」